

No. 1012

アユ解禁

—神奈川—

アユ解禁の6月1日、神奈川県酒匂川には一万人の釣人がおしかけました。すさまじい釣竿の数におびえたのか、アユはとんと姿を見せません。仕掛の差が戦果にひびくとあって、釣天狗を自負する太公望の中には50万円分の仕掛を持ってくる人もあって、アユ一匹が幾らにつくのやら。準備万端整えたものの戦果はさっぱり。半月じつとがまんしてやっと一匹、慎重に慎重に、宝ものでもあつかうように、ひきよめます。それにしてもめっきり減ったアユの姿に、釣人はいったい日本はどうなるのか、うれいっているようでありました。

日本列島沈没

……臨時ニュースを申し上げます。昭和X年X月X日、日本海溝で海底異変が起こり、各地で津波が発生、これにより、日本列島太平洋岸の各都市は多大の被害を受けました。また富士火山帯の活動が始まり、各地に強度の地震が頻発、日本中が混乱に陥った模様です。繰り返します。X月X日……

このようなニュースは架空のものである、と果して断言できるであろうか。浅間山の爆発、東京の都心の真下を走る大断層の発見、関東大震災前と類似した房総半島の地盤隆起。このところ各地に不気味な前兆が伝えられる。5月30日には小笠原付近で海底爆発も起こり、20~100メートルの白煙があがった。

国土地理院の地殻活動調査室の藤田さんは専門家の立場から「まづ大地震の心配はないと思います」と楽観的。埼玉県・芝地区や千葉県海神町付近では目に見えない沈下が進み、少しの雨で床上浸水の状態。東京湾港入口に住む近藤さんは一日の休みもなく検潮を続ける。検潮器の針は潮の満干を規則正しく記していく。この針に狂いが生じた時……。

SF作家、小松左京氏の『日本沈没』がベストセラーを続ける。
世界的な異常現象、日本列島沈没は単なるSFの世界であろうか。